松山学院 集中力光る

新小松 流れ呼び込めず

【新小松―松山学院】7回まで毎回の13奪三振を奪った松山学院・佐藤＝坊っちゃんスタジアム（撮影・和田亮）

坊っちゃんスタジアム

▽2回戦（11時46分）

新小松	010	000	0	1
松山学院	031	000	4×	8

（7回コールドゲーム）

▽二塁打　高津、野村、佐藤▽犠打　新0、松4（伊藤、佐藤、野村、松田）▽盗塁　新0、松3（当間、伊藤、仲宗根）▽失策　新4（河野、渡部、柿見、浅川）松0

▽暴投　戸田▽球数　戸田58、余吾42、佐藤126

▽審判　球審　高市▽塁審　福住、松野、岡田

▽試合時間　2時間1分

【評】松山学院が集中力を切らさず押し切った。0―1の二回、仲宗根の右前適時打で同点にすると、松田、木下に連続適時打が出た。七回は犠飛や安打で得点した。先発佐藤は7回1失点で13奪三振。直球がさえた。

新小松は二回2死満塁、柿見の中前適時打で先制したが、三回無死満塁の好機で流れを呼び込めなかった。

外角を振り切った

新小松・柿見（初打席の二回に先制適時打）「相手投手は外角直球が多く、ボール気味だったが何とか振り切った。緊張したが仲間の応戦で楽しくやれた。1年生で味わえた夏の大会の経験を成長につなげたい」

直球軸 高い対応力

松山学院 エース左腕

外角への直球がさえた。松山学院のエース左腕佐藤が7回13奪三振の好投。「自分のいい球を投げきることができた」と胸を張った。

三回は死球や安打で無死満塁のピンチを招いたが、動じなかった。「一番自信がある」直球で勝負。2連続の空振り三振と三邪飛で流れを維持した。

1年生チームの相手打線については「どの球も振ってくるいきおいがあった」。初回に変化球を捉えられると、直球を軸に据える対応力もみせた。

延長10回138球の初戦・北宇和戦に続き、126球での連投。「疲れはない」としつつも、課題はボール球を減らすこと。「マウンドを譲るつもりはない。次もいい球を投げ込んで勝つ」と汗を拭った。

（織田龍郎）

【新小松】		打	安	点	振	球
DH	高尾	3	0	0	1	1
⑧	河野	4	1	0	3	0
⑦	高津	3	2	0	1	0
⑤	伊藤	3	1	0	2	0
⑨	園部	3	0	0	2	0
②	三浦	3	0	0	2	0
⑥	渡部	3	1	0	1	0
③	立花	1	0	0	0	2
④	柿見	2	1	1	1	0
H	佐山	1	0	0	0	0
4	浅川	0	0	0	0	0

犠	盗	失	併	残	打	安	点	振	球
0	0	4	0	7	26	6	1	13	3

【松学】		打	安	点	振	球
⑧	木下	5	2	1	0	0
③	当間	5	2	1	1	0
⑥	奥村	4	0	0	0	0
②	伊藤	2	2	0	0	1
①	佐藤	3	2	1	0	0
④	野村	3	1	1	0	0
⑦	仲宗根	4	2	1	0	0
⑤	佐々木	4	1	0	0	0
⑨	松田	3	2	2	0	0

犠	盗	失	併	残	打	安	点	振	球
4	3	0	0	10	33	14	7	1	1

投手	回	打	安	振	球	責
戸田	4	21	6	1	1	3
余吾	2⅔	17	8	0	0	1
佐藤	7	29	6	13	3	1